

## 全自動透析装置を使用した在宅血液透析(HHD)の有用性

医療法人衆和会 長崎腎病院 長崎腎クリニック

○石飛征斗 佐藤泰崇 林田征俊 田中 健 矢野利幸 高木伴幸 澤瀬健次 橋口純一郎 原田孝司  
船越 哲

### 【背景】

現在、透析施設において全自動型透析装置は広く使用されているが、HHD に関しては水質のバリデートが困難である点から、あまり普及していない。当院では全自動透析装置の恩恵を活用するため、3 年前から HHD で全自動型の個人用透析装置の使用を開始した。

### 【目的】

HHD における全自動透析装置の使用経験から有用性を検討する。

### 【対象】

当院の HHD 施行患者 22 名のうち全自動透析装置を使用している 11 名。(男 4 名、女 7 名、平均年齢 57.9 歳 ±12.1 歳)

### 【結果】

有意差は認められなかったものの HHD 移行のための平均教育期間は 4.3 ヶ月から 3.6 ヶ月に短縮し、ヒューマンエラーも減少する傾向にあった。一方、平均 4.2 ヶ月毎に RO 膜洗浄・ライン交換等のメンテナンスが必要となり、スタッフの訪問回数が増加した。

### 【考察】

今回、HHD で全自動透析装置を使用することで、患者教育期間の短縮やヒューマンエラーの減少が認められたことにより、HHD の普及に貢献できる可能性が示唆された。しかし、水質の担保には多くのマンパワーを要するため、安全かつ簡便に使用可能な配管の洗浄システム等の普及が早急に望まれる。